

イザヤ書 第35章 1節

「荒野と砂漠は楽しみ、荒地は喜び、サフランのように花を咲かせる。」

これは驚きの歌である。荒野は何も無いところ、命さえもなかなか認めることが出来ないところである。荒野とあるから、あるいは野と呼ばれる所に何かが生息しているかもしれない。それにしても、荒れた野である。その荒野と並行して砂漠が歌われる。ここに至っては石ころ、砂ぼこり、土煙が舞い上がるしかないところである。そこに楽しみ之歌言葉が挿入される。

荒野と砂漠、そして荒地と歌う。徹底的に命と無縁な世界を描いている。描くどころか、このようなところを踏みしめた者からの歌である。荒野を荒野として踏みしめ、砂漠を通り、延々と続く荒地の地平を辿った者の歌である。まぎれもなく、荒涼とした地を旅し、炎天下飢え渴き疲れ果てる経験を持つ者である。夜には凍てつく地で、星を、月を見上げ、朝を待望した者である。

それなのに歌う。楽しみ、喜び、サフランのように花を咲かせる、と歌う。それも、歌い手は荒野にいる。砂漠にいる。荒地にいる。まさにその地に立っているところから楽しみ、喜び、花が咲くと歌っている。どんな楽しみ、喜び、花が咲いているのだろうか。それを身を以って知る者の歌である。

2022年10月14日